

基調講演



西谷 雅史

Masashi Nishiya

響きの杜クリニック 院長

改めまして、日本アーユルヴェーダ学会第48回東京研究総会にご参加頂き、誠にありがとうございます。
本大会の開催にあたり、大会長として皆様を十分にお迎えし、その務めを全うすることが叶わなくなりましたことを、まずもってお詫び申し上げます。

私事ではございますが、今年7月に脳梗塞を発症いたしました。
これまで自身の身体を顧みることなく日々を重ねてきたことを、今、あらためて振り返っております。現在も言語障害が残っており、皆様と十分にコミュニケーションをとることが難しい状況でございます。

しかしながら、今回の病を得たことで、私は「医療者」から「一人の患者」へと立場を変えることとなりました。
そして、その過程で自らパンチャカルマを受ける機会を得、自身の身体と回復のプロセスに向き合うという、これまでとは異なる視点から医療と健康を見つめる貴重な経験をいたしました。

本日の基調講演では内容を変更致しまして、医療を提供する側にいるだけでは見えなかったこと、患者となって初めて感じたこと、そして、自らの心身に日々向き合うことの大切さ。今回の経験は、私自身にとって、アーユルヴェーダが単なる医学体系としてではなく、一人ひとりの生き方や暮らしの中に息づく智慧であることを、あらためて考える機会となりましたのでその報告をさせていただきます。

第48回日本アーユルヴェーダ学会東京研究総会では、「社会に息づくアーユルヴェーダへ～暮らしの中から広がる共生の智慧～」をテーマに掲げています。
アーユルヴェーダの智慧が、専門家や医療者だけのものではなく、人々の日々の暮らしの中に根づき、世代や立場を越えて共有され、社会へと広がっていく。そのために私たちは何ができるのか。本研究総会が、その可能性を皆様とともに考え、新たな一歩を踏み出す場となることを願っております。

本大会で交わされる学びと交流が、それぞれの暮らしへと持ち帰られ、やがて社会の中にアーユルヴェーダの智慧が息づいていく——そのような研究総会となることを心より願い、私の体験談をもって基調講演とさせていただきます。

尚、本来なら大会長である私が基調講演をすべて執り行うべきなのですが、体調が万全でないことを鑑みて、パンチャカルマにご参加頂いた中島佐知子先生に、パンチャカルマの開催報告をベースに、先生からの視点での解説をお願いしております。

最後になりましたが、このような状況の中、本大会の開催に向けてご尽力くださった関係者の皆様、そしてご参加くださるすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

略歴

1956年 東京生まれ北海道大学医学部卒、
2006年 統合医療を実践する 響きの杜クリニックを札幌で開業。